

(報道資料)

BSデジタル放送、10月末で普及数3000万を突破！

(社)デジタル放送推進協会(Dpa)
NHK、(株)BS日本、(株)BS朝日
(株)ピーエス・アイ、(株)BSジャパン
(株)BSフジ、(株)WOWOW、
(株)スター・チャンネル、日本BS放送(株)
ワールド・ハイビジョン・チャンネル(株)

BSデジタル放送の普及数は、10月末で3000万の大台を突破しました。
多くの視聴者の皆様のご理解とご支援、ならびに関係者の方々のご尽力の賜物であり、
心より感謝申し上げます。

BSデジタル放送を受信できる機器[ケーブルテレビ用のデジタル・セット・トップ・ボックス(STB)を含む]の10月末時点での出荷台数は、約2881万台
一方、ケーブルテレビに加入して、デジタルアナログ変換伝送(デジアナ伝送)により視聴している世帯は、10月末で約155万世帯。[(社)電子情報技術産業協会(JEITA)の公表出荷台数とNHK独自調査による推計]単純に、両者を足し合わせると、BSデジタル放送の普及数(受信可能件数)は、10月末の段階で約3036万件となり、3000万の大台を超えたこととなります。(詳細内訳は別紙)

BSデジタル放送は、2000年12月1日に放送がスタートして約4年9カ月で1000万(2005年8月末)に到達し、その後、普及のスピードはますます加速し、約1年3カ月後の昨年12月上旬、2000万を突破しました。
そして、今年10月末、2000万達成時のスピードをはるかに上回る約11カ月という速さで、3000万の大台を突破いたしました。

急速な普及の背景には、BSデジタル放送ならではの高画質・高音質、双方向機能、データ放送など様々な魅力が視聴者の皆様に広く認知されるとともに、BSデジタル各局が地上放送では見られない映画、ドラマ、紀行、ドキュメンタリー、スポーツ、カルチャー、音楽など多彩な番組を放送してきたこと、受信機メーカー各社の商品開発により、3波共用受信機の低廉化と高機能化が進んだこと、また、地上デジタル放送が、2006年12月、全国の都道府県で開始され、その後、急ピッチで中継局の拡充が進められていることなど、放送事業者と受信機メーカーによるひとつかたならぬ努力がありました。

また、開局8年目を迎える今年12月1日には、新たなBS放送局としてBS11（イレブン）デジタルとTwe11V（トゥエルビ）の2局が加わることになり、さらに、スター・チャンネルBSは、スター・チャンネルHV（ハイビジョン）として生まれ変わります。このように、BSデジタル放送は、変革拡充の時期を迎え、今後、BSデジタル全体に対する関心はますます高まるものと期待しています。

今回の3000万突破を記念して、BSデジタル10局では共同で「GO!BSデジタル3000万!」をキャッチフレーズに、10月中旬から12月中旬にかけてキャンペーンを展開しております。“郷ひろみ”をイメージ・キャラクターに起用したキャンペーン・スポットの放送を中心に、年末年始に向けて各局の力作番組が続々登場いたしますので、どうぞお楽しみください。

これからも、DpaとBSデジタル放送各社は、受信機メーカーや関係団体と協力しながら、BSデジタル放送の普及を通して、デジタル放送全体の発展に貢献してまいりたいと考えております。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

2007年10月末現在のBSデジタル放送の普及状況の内訳は以下の通りです。

BSデジタル放送受信機 累計約2881万台（10月増加 約106万台）
（内訳）

- ・ プラズマ、液晶テレビ 累計約1631万台（10月増加 約66万台）
- ・ ブラウン管テレビ 累計約 186万台（10月増加 約 0万台）
- ・ デジタルチューナー 累計約 598万台（10月増加 約27万台）
（チューナー内蔵録画機器を含む）
- ・ ケーブルテレビ用STB 累計約 466万台（10月増加 約13万台）

ケーブルテレビのデジアナ変換で視聴している世帯 累計約155万世帯

以上